

# 東海大学通信工学同窓会会報

創刊号(平成23年4月1日)

発行 東海大学通信工学同窓会 会長 若林 敏雄

<http://tasc.gr.jp>



## ご挨拶

会長 若林敏雄

東日本大震災により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。  
2007年に松尾守之前会長のご尽力により通信工学同窓会が再出発いたしました。節目となります3年目の今年度から会長職を賜り、会報発行は今年度の活動目標でした。今回、同窓会会報の創刊号を発行いたします。創刊号として2011年に完成年度を迎えます、情報通信学部通信ネットワーク工学科の紹介、恩師からのメッセージ、学年同窓会の集い、などのご紹介を中心として掲載いたしました。e会報としてファイルの形式ですがぜひご覧いただき、ご意見、ご感想を賜れば幸いです。会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

## 大学改組と同窓会の行方

東海大学は、2001年、2006年の2度の改組を表の通り実施しました。2008年には、九州、北海道、東海大学を東海大学に統合すると共に、高輪キャンパスに情報通信学部を設置しました。この学部は、企業との連携に基づいた新しいユニークなカリキュラムによって、世界をリードする情報通信技術者を育成することを目指した情報メディア学科、組込みソフトウェア工学科、経営システム工学科、通信ネットワーク工学科の4学科で構成されています。通信工学科のDNAはわずか10年の間に、3度の名称変更がなされました。これが急速に進展するICTを先取りしたものであるかどうかは時を経ないと分からない。このDNAを持つ同窓会は通信工学同窓会でありますが、学科も廃止され、会員は減ることはあっても増えません。このDNAを引き継ぐ学科は、表よりコミュニケーション工学科、情報通信電子工学科として通信ネットワーク工学科であり、同窓会はまだ設立されていま

せん。そして、通信ネットワーク工学科は2012年3月に卒業生を輩出します。これらの学科が一体となつて同窓会が運営されることが、大学、学生、卒業生にとって効果的、効率的であり、発展性のある、シンプルな形となると考えられます。これは、通信工学同窓会員として最も望むところであり、後輩の皆さんと一緒にやりませんか。

## 通信学科紹介

通信ネットワーク工学科

本学科はネットワーク技術、通信システム技術、ソフトウェア技術をバランスよく教育し、豊かで安心できるユビキタス社会を支える通信ネットワーク技術者を育成することを目指して、2008年4月に港区高輪の地に設置されました。学生定員は1学年80名です。学科専門分野の専任教員は9名であり、通信工学科のDNAを有する唯一の学科です。主任は石井啓之(いしいひろし)教授であり、専門は通信情報ネットワークで、世界的に活躍されています。

2011年3月に完成年度を迎え、第1回の卒業生を社会に送り出すことになります。今、3年生は、各研究室に分かれ卒業研究

(実践プロジェクト)として、次世代高効率・高速無線通信方式、アドホックネットワークやネットワークマネージメント、プロトコルやアルゴリズム、eラーニング、インターネットセキュリティ、WEBアプリケーション、並列分散システム、データマイニング等に関する研究に取り組む

| 2001年   | 2006年        | 2008年        |
|---------|--------------|--------------|
| 工学部---- | 電子情報学部-----> | 情報理工学部-----> |
| 通信工学    | 情報通信電子工学     | 通信ネットワーク工学   |
| 電気工学    | ソフトウェア開発     | 組込み込みソフトウェア  |
| 電気電子工学  | 経営システム工学     | 経営システム工学     |
| 電気電子工学  | コンピュータ応用工学   | コンピュータ応用工学   |
| 電気電子工学  | 情報科学         | 情報科学         |
| 電気電子工学  | 情報メディア       | 情報メディア       |



べく、それらの基礎である基本プロジェクトの勉強に励んでいます。写真は森田研究室における取り組みの1コマです。施設設備として、教室、研究室、実習室、ネットワーク実験室、図書館等が整備され、本年中には、学生ホール階段教室、PC実習室、部室などが完成し、世界をリードする通信ネットワーク技術者育成の殿堂となります。  
左記のURLで高輪キャンパスの施設設備の詳細が分かります。  
<http://www.uto-kai.ac.jp/about/campus/takanawa/index.html>  
(東海大学教授)

# 恩師からのメッセージ



松尾守之先生より

卒業生の皆さんへこの度の大地震と津波では、多くの卒業生の皆さんと、そのご家族も被災されたことと推察し、心からお見舞い申し上げます。

今回の災害では、NHKがニュースをWeb上に流しました。これまでTV放送は放送法によってWebで流すことはできませんでした。それとは逆に、通信会社がWebで放送することも禁止されてきました。

今回、放送と通信の壁がはずされ、NHKの放送をWebで海外でも観ることができました。タイやインドネシアにいる卒業留学生から、NHKを覗いて心配しているというメールが多数来しました。こうしたことは、通信工学を学んだ私たちにあって、記憶にとどめておくべき出来事だと思えます。現在、通信卒の多くの方々が通信や放送の分野で

活躍されています。また、既に現役を離れている方、通信工学とは全く違う分野で活躍しておられる方もおられますが、そういう方々にとっても、日常生活や仕事の中で、通信工学の基礎概念を無意識のうちに使っていることがあると思います。今や、携帯電話やスマートフォンは、電気や水道のごとく、生活必需品になりました。まさに通信の時代が到来しました。若き日に通信工学を学んでおいて正解だったと思います。さて、私ですが、2年前の70歳ですべての教壇から降り、その後約一年は、親の介護に追われていました。昨年5月でそれも終わりました。何かと雑事に追われていたのですが、昨年11月、大人のための数学教室

「和（なごみ）」の代表の方と会い、意気投合しました。そして、今では社会人の方々に数学を教え、毎週、忙しい思いをしています。ご承知のとおり、コンピュータ工学の発展により、データさえ入力すれば、あらゆる問題の回答が得られるようになりました。その最たるものはエクセルでしょう。しかし、データを入力し結果を見ても、それが当面している問題に対し

て正しい答えになっているかどうか、検証しなければなりません。特に統計の分野では大切です。そのためには、数学の素養が必要で、現在、社会人で数学を学び直そうとする方が大勢います。毎週、そうした熱心な人たちと一緒に問題を考えたり、議論をして楽しんでいきます。数学を始めから学びなおそうと考えている方は、ぜひ、扉を叩いて下さい。皆さんのご健勝と、益々のご活躍を、心から祈念しております。

matsu@tokai.ac.jp

(東海大学名誉教授)



吉田正廣先生より

3月11日に発生しました東北地方太平洋沖大地震では、多くの皆様が被災され、また多数の皆様がお亡くなりになりました。卒業生および関係者の皆様方の中にも被災されたり、お亡くなりになった方がおられるのではないかと拝察致しております。被災された皆様方にお見舞いを申し上げますと共に、お亡くなり

になりました皆様方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。さて、東海大学では、皆様が学びました通信工学科を中心として、長年にわたり松前重義博士の技術者精神を背景とした情報通信技術者育成教育に取り組んできました。その結果、これまで数多くの優れた人材を産業界に輩出し、社会の発展に貢献してきました。通信工学科はこのよう

な伝統と実績を有する学科でした。しかし、東海大学の大学改革の一環として通信工学科は発展的に解消され、2008年4月には東海大学の情報通信技術者育成教育の拠点として、東京都港区高輪に「情報通信学部」が開設されました。現在、私はこの学部勤務として教育と研究に取り組んでいます。自分が学んだ学科が無くなるということとしては、卒業生の皆様にとりまして大変残念で寂しいことであると思います。しかし、私はこの情報通信学部は皆様が学ばれました通信工学科の伝統を引き継ぐ学部であると考えています。このような考えから、私は、日頃の授業の中で卒業生の皆様の社会での活躍の状況を学生に紹介したり、卒業生を我々の学部にお招きし

て講演会を開催するなどの取り組みを行っています。情報通信学部は若い学部ですが、卒業生の皆様のご支援を頂きながら立派な学部

に育てたいと考えています。2012年4月には情報通信学部の第一期生が社会に出て行きます。是非とも情報通信学部の卒業生にも皆様の心温まるご支援とご指導を頂きますようお願い申し上げます。情報通信学部はJR・品川駅から徒歩15分の位置にあります。近くにおいでの方には是非本学部にお立ち寄り下さい。末筆では御座いますが、卒業生の皆様の益々のご活躍を祈念致しております。

編集部より

吉田先生は情報通信学部組込みソフトウェア工学科の主任教授をされています。

## 同期会便り

62年度東海大学通信工学同窓会だより

福田哲夫

本年2月に寺本三雄先生をお迎えして50回目の同窓会が霞ヶ関ビルの校友会館で開催されました。本会の自慢すべき事は卒業後50年間連続して開催し参加者が20名を超える事です。今回も20名の参加がありました。

た。私共は本学に通信工学科の3期生として入学した時代は代々木校舎2号館「X字型校舎」が出来た年です。湘南校舎を見ること無く約83名が卒業致しました。本会も卒業当初の若々しいエネルギーな話題から年を重ねる毎に大きく変わり最近健康の話が主流になっております。これからも健康維持に努めTASCの活動を通じて後輩のお役に立てればと60回目の同窓会開催を目指し頑張る所存であります。私共同様に皆様の卒業年度の同窓会を充実させて頂きTASCを通じて多に交流いたしましょう。本学の益々の隆盛と皆様のご健勝を祈念いたしております。

(同窓会副会長)





# 恩師からのメッセージ



木村登先生より

東海大学陸上部創部50周年を迎えて

1960年に代々木校舎で創部した東海大学陸上競技部は今年で50周年を迎えました。50年という一つの節目に、これまで支えて下さった初代総長松前重義博士を始め、OB並びに関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。創部時には、工学部の学生のみ10人程で発足し、しかも24歳の助手で大学では陸上競技の経験の無い私が初代部長に任命され、31年間部の基礎づくりが勤められたのも皆様のご協力、ご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。今後は更に発展し活躍する部にするため顧問として微力ながら支援してまいりたいと考えております。関東、全日本タイトルは次の通りです。

## 関東インカレ 一部優勝

|           |          |
|-----------|----------|
| 2001年     | 130.5点   |
| 2002年     | 136.0点   |
| 2003年     | 129.0点   |
| 2004年     | 135.5点   |
| 2006年     | 134.5点   |
| 2007年     | 153.5点   |
| 2010年     | 108.0点   |
| 全日本インカレ優勝 | 2001年    |
| 2004年     | 92.5点    |
| 2007年     | 116点     |
| 95.28点    | 2003年    |
| 全日本駅伝優勝   | 2005年    |
| 5時間21分6秒  | 2006年    |
| 2時間8分42秒  | 2007年    |
| 2時間7分48秒  | 2時間7分14秒 |
| 箱根駅伝往路優勝  | 2005年    |
| 5時間32分11秒 |          |

(東海大学名誉教授)  
(東海大学陸上部顧問)

## 編集部より

木村先生は日本学生陸上競技への長年の功績により日本学生陸上競技連盟より功労賞

日本陸上競技連盟より

秩父宮賞

を受賞されておられます。

## 同期会便り

66年37通Iクラス有志会

今井 幸雄

37通Iクラス有志会は毎年、1月と8月に懇談会を開催しています。今回は8月15日土、13時から15時に渋谷の東武ホテルで開催しました。参加者は17名でした。37通I有志の会は平均年齢67歳のクラス仲間、家族同伴の集りです。会員仲間を募集しています。最初、参加者全員の集合写真を撮る。その後、幹事の栗原君の司会で会がスタートしました。有山君の長女ピアノの進行が花を添え和やかにになり、セミプロ級歌手会員の独演や参加者全員の合唱もあり、雰囲気は盛りまりました。遠路、沖縄から駆けつけた小松君は現在人生の折り返し点で、次の担い手にバトンタッチをする

ために、ボランティア活動をしているとの現況を話した。歓談した内容は左記の通りでした。

学生時代の事：

指導教員篠崎寿夫先生

FM東海試験放送

無線通信

コンピ ユータ教育

野球部創設

ラグビー部創設

近況報告の内容：

ミニ講演

研究活動

趣味の仕事

家族の状況

過去現在未来のロードマップ

地上デジタルTV

東京スカイツリー

ケイタイ・インターネット

TV電話“Skype”

利用

グーグルアース“世界カメラ”活用を楽しむ

飛立つ者・入会する者

友達の友達は皆友達

縦横接続の解析接続

TASCの事

(同窓会企画部理事)

## 37通Iクラス有志会風景



## 事務局より

## 代議員募集

会員の皆様から代議員を募集しています。何卒前向きに本会活動を理解して推進していただける方々の積極的なご参加をお願いいたします。

## 代議員会の案内

日時 5月28日

13時半

場所 高輪校舎

代議員会後オープンな講演会及び親睦会も企画しています。会員お誘い合わせてご参加下さい。

お問い合わせ、ご連絡は jimuta@tasc.gr.jp まで。

## 盛り上げよう同窓会活動

中西孝夫

2009年度より2年間事務局長を担当させていただきました。学科同窓会の位置づけと活性化に関して良く理事会で話題となります。ホームカミングデーなどで皆様とお会いしますが、同じクラスの皆さんで楽しく歓談されている様子を良くお見受けします。この光景から感じますことはクラス同窓会の集まりで学科同窓会へ参加が出来るば会合でのコミュニケーションもスムーズに出来て、中味の濃い内容で歓談も盛り上がり活性化への道が広がるのではと考えます。ぜひ皆様、クラスの横の連絡をお取りいただき、積極的に本会が主催します春秋のイベントにご参加下さい。2011年度も微力ですが事務局を努めさせていただきます。何卒皆様のご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

(事務局長)



親睦と研鑽の場づくりを

昭和54年通信工学会  
波濤 創刊号より

総長 松前重義

このたび通信工学科卒業生有志のご尽力によって東海大学通信工学会の発足をみるにいたった事は誠に喜ばしい限りであり、心からなるお祝いを申し上げます。いまから34年前あのささやかな学校が創立され以来、本学は幾多苦難の道を歩みつゝ今日をむかえたのであります。その間、先生方



「青春に生きよう」より

の非常な努力と学生、教職員をはじめ、関係各位の同志的結合が今日にみる大学を築き上げ、いまや6万人にも及ぶ卒業生が各界で活躍しているのであります。なかでも通信工学科の場合、工学部の中でも最も伝統ある学科として注目され、有為の人材が関連産業に中堅あるいは指導者として活躍されております。申すまでも無く電気通信はあらゆる産業・文化の中枢神経といわれ、近代科学の推進に大いなる役割をはたしてきたのであります。今日資源の枯渇が予想され、エネルギーにつ

いて新しい展望を必要とする時代をむかえております。即ち石油文明といわれる現代文明は、21世紀に向かって新しい文明を創造する必要にせまられておりますが、この問題を解決するために情報伝達手段としての電気通信の役割は益々その重要性を増しているのであります。こうした時代なればこそ、大学はその能力を発揮すべきであり、ます。事実われわれは情報処理の新システムの開発に関する研究をすすめており、近い将来その成果を発表することになりましょう。このようにして我が大学はグローバルな視野の上に立つてバイタリティのある大学として活躍しているのであります。このたび発足された通信工学会も単なる親睦機関としてでなく、会そのものが日々の研鑽に役立つ場として、より一層の充実を期待するものであります。

福島原発事故で思うこと

中西孝夫

原子力の平和利用に深い理解と多大なる貢献をされた松前重義博士はこの事故をどのように感じておられるであろうか？松前博士と原子力の関わりは大変深く主な功績を振り返ってみたい。まず昭和20年8月6日広島に投下された原爆に対し技術院の広島被爆調査団長として現地に赴き、原子爆弾である、との報告を軍部の強いプレッシャーに屈せず発表し、8月15日の戦争終結を導きました。

つぎに昭和29年3月1日のビキニ水爆実験、死の灰事件でも、松前博士は右派社会党 ビキニ被災調査団、をリードし、この調査報告、松前報告書から原子力の国際管理に関する決議案と原子力国際管理並びに原子兵器禁止に関する決議案を提唱、衆参両院一致で採択されました。更にこの決議結果は広島での昭和30年第一回原水爆禁止世界大会開催への大きな原動力となりました。松前博士は信念として核兵器の廃絶を強く訴えましたが、核エネルギーの平和利用は推進しました。昭和30年初めてジュ

ネーブで開催された原子力

平和利用国際会議に超党派で参加し、帰国後、原子力平和利用のための原子力基本法と科学技術庁の設置を強く推進しました。原子力基本法は松前博士が起草した議員立法で昭和30年12月に成立しました。科学技術庁の設置は政府提案として翌年の昭和31年に成立しました。原子力基本法第2条を紹介すると、原子力の研究、開発及び利用は、平和目的に限り安全の確保を旨とし、民主的な運営の下に自主的にこれをおこなうものとし、その成果を公開し、進んで国際協力に資するものとする、あります。安全を旨とし、この言葉を重く受け止めてゼロから安全に対して取り組まなければならないと考えます。松前博士に日本の復興を天国から見守って欲しいと切に望む次第です。



国会での松前博士  
「わが人生」より



瀬戸内海を航行する望星丸 仲神徳彦氏(61)撮影



熊本の松前博士の生家